

2018年は「福沢一郎生誕120年」の記念の年です！

## 福沢一郎生誕120年展 —富岡まるごとフクザワ—

会期：9月15日(土)～11月11日(日)



皆さんの秘蔵の福沢作品を  
市民ギャラリーで  
お披露目しませんか？



### 募集概要

**応募対象** 個人や企業などで所有する福沢一郎作品（油彩、版画、デッサンなど）

**応募方法** 電話、ファクス、メールで、美術博物館に申し込んでください。その際、分かる範囲で次の事項をお伝えください。

- ① 題名
- ② 技法・材質 ※例：油彩・キャンバス
- ③ 大きさ（縦・横cm）
- ④ 所有者の氏名、連絡先（住所、電話番号）

**募集期間** 4月10日(火)～7月22日(日)

**その他**▷作品の写真がある場合はお送りください。

▷作品の評価や真贋の判定は行いません。

▷申し込み後、美術博物館から個別に連絡します。

### 申し込み・問い合わせ

美術博物館 (☎ 62-6200、☎ 62-6201、

Eメール bijyutu@city.tomioka.lg.jp)

## あなたの所有する 福沢作品を展示します！

美術博物館では、今秋、福沢一郎の生誕120年を記念した企画展を開催します。この企画展は、名誉市民であり名誉県民、文化勲章受章者でもある福沢の画業を改めて紹介するものです。皆さんにご協力をいただきながら、本市をまるごと福沢でうめつくすような事業も計画しています。

その一環として、皆さんがお持ちの福沢作品を併せて展示します。本展は福沢の生誕の地だからこそできる展覧会です。ご応募いただいた作品は、企画展会期中、特別展示として1階市民ギャラリーに展示します。

## 国民年金保険料の 学生納付特例



20歳以上の国民年金加入の学生で、収入が一定額以下の場合、申請して承認を受けることで保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」があります。

**対象者** 本人の所得が118万円以下（扶養親族がない場合）で、短大、大学、大学院、専門学校などの学生（夜間、通信制を含む。ただし、海外の学校や一部の学校は対象にならない場合もあります）

**承認期間** 平成31年3月まで

**申請に必要な物**

- ▽学生証のコピー（表裏）か在学証明書
- ▽印章（本人申請の場合は不要）
- ▽日本年金機構から申請のながきが届いた人（前年度手続済みの人）は、必要事項を記入の上、返送してください。
- ▽保険料納付書が届いた人で、学生納付特例制度を希望する場合は、国民年金課（行政棟2番窓口）で申請してください。
- ▽過去分は申請時点から2年1ヵ月前の分まで申請できます。

**問い合わせ** ▷高崎年金事務所（☎ 027・322・4299（代表番号））

▷国民年金課（☎内線1126）

## 市民の文芸

俳句 高橋 洋一 選

通学路の白線新た風光る  
料峭や炙りし鳥賊を握りしむ  
白梅や一枝手折り祖に手向け  
竹林の日差しを負うて梅の花  
腰痛の癒えて畳みし春炬燵  
髪切つて耳過ぐ風の春寒し  
月食の赤銅色の冬の月  
品定め老いて就農農具市  
春風邪にぐるる乳呑み子母添ひ寝  
春光に白銀眩し浅間山

（下黒岩 野口ちる子）  
（富岡）小池はるみ  
（岡本）柳澤 則子  
（富岡）黒澤 克美  
（下黒岩）吉田シズ江  
（上黒岩）本多八千代  
（神農原）上原 良雄  
（中高瀬）佐藤 強  
（黒川）佐藤 幸三  
（富岡）橋本 節子

短歌 杉山 郁子 選

熱心にメモを取り聞く一年生に昔の道具のランプを説きぬ  
亡き母がいろりに煮ていし芋幹の鉄分多きを今に知りたり  
「警察ですが」と言葉巧みな電話受く残雪凍てし風強き午後  
初めて生後十日の曾孫だき小さな命を飽かず見守る  
軽トラに朝採り野菜積み上げて若き夫妻は集荷所へ急ぐ  
ヒタヒタと誰か後ろに迫るよな夜のお使い幼き日のこと  
青空に形くずれし千切れ雲目で追う先を何処かに去る  
オリンピック羽生選手は堂々と優勝果たす努力重ねて  
澄み渡る故郷の空妙義嶺も凜と輝く初春の朝  
庭に咲く花に目を留め「いやされますよ」と道行く人は声  
かけられる

（白岩 金井 幸子）  
（七日市）恩幣 森造  
（南蛇井）横田 久子  
（七日市）新井 逸子  
（下高尾）金田 照治  
（後賀）黒田 修司  
（七日市）関 明子  
（七日市）宮 和子  
（七日市）小坂橋光雄  
（富岡）橋本 節子

詩

宮前 利保子 選

古い (一ノ宮) しばのみち

川 柳 黛 極 選

大病が 気付かせたものは  
ばあさんになったこと  
久し振りの 知人が  
「ばあさんになったね」  
心の中で返す  
「よくも 言ったね」  
気にするたびに 本物になってゆく

昔 私を美しいと  
ほめてくれた 男は死んだ  
生老病死のフルコースなど  
この世には無いと 自分に言い聞かせ

今日の月を 眺めながら  
医師に渡された 薬を飲む

ひじ付いて台所する母の背な  
降る雪や芳紀はまさに九十歳  
無電柱世界遺産に弾みつき  
一人立ち目覚し響く初仕事  
朝散歩小鳥の機嫌耳で聴き  
老い老いで愉快な話盛り上がり  
親ばかがない子供に金送る  
妙義山屏風に立てて春を待ち  
母の忌に繁栄告げる手を合わせ  
春は春自家露地野菜喰っている

（相野田）小柴真知子  
（富岡）大河原富美  
（七日市）浅川 幾雄  
（黒川）原田利恵子  
（一ノ宮）大野 里子  
（下高尾）金田 照治  
（岡本）轟 陽子  
（富岡）田島八千代  
（富岡）金井 金代  
（南蛇井）丸山 昭夫